

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000096		
法人名	特定非営利活動法人 りあらいず和		
事業所名	郡上乃風グループホーム 清流の家		
所在地	岐阜県郡上市八幡町初納字堂前397番地1		
自己評価作成日	令和4年1月25日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191000096-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生まれ育った郡上の地で季節を感じながら住み慣れた地域の中で、馴染みの顔や行事、郡上弁で穏やかにゆつくり楽しく「家」の様に過ごせるように寄り添った支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「清流の家」の名称には、ホームが利用者の「家」であり、家庭的な雰囲気大切にしたいという願いが込められている。地元職員も多く、利用者との会話は方言が飛び交うアットホームな雰囲気である。地域住民との交流を進めていたが、開設1年目にしてコロナ禍となり、行政の感染症対策を見極めながら支援に努めている。法人は、「共生社会の実現と地域福祉の充実」を活動理念に掲げ、様々な事業を運営する中で、「高齢者の食を障がい者の職で支え合う」というコンセプトで、利用者の昼・夕食は法人の障がい福祉サービス事業の配食弁当を利用し、職員の業務効率化と人手不足の課題改善に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を掲示し、職員一人一人が意識を持つよう、職員面談時にも実践が出来ているか確認している。	理念は、常に職員が目にすることができるよう、リビングの入口に掲示し、意識化を図っている。自分の家族や自分自身が受けたいような介護サービスの実践に努め、職員会議や代表者との個人面談で、理念の実践ができていないかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	舞遊会が施設訪問し、利用者が鑑賞できる機会を作る。	緊急事態宣言発令や解除等の状況を見ながら、自粛すべき事と出来ることを見極め、地域との交流を進めている。地域ボランティアによる日本舞踊は開催することができ、今後も、感染拡大状況次第で地域交流を図っていくとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の面会者や、施設見学者に認知症についての理解や支援の方法をお話する機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染予防の為、開催を見送る事となった。	今年度の運営推進会議は中止となり、市からは書面会議の要請はなく書面での提出もしていない。来年度の開催に向け、運営推進委員には継続依頼の挨拶をし、交代予定の人は、新委員への依頼準備を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、市役所との連絡を取り、事業所の取り組みを積極的に伝え、協力関係が築けている。	2名の利用者が100歳を迎え、市の「長寿者褒賞制度」の対象となり、市長の訪問を受けている。感染症対策を講じた上で、表彰状、祝金と祝品の贈呈セレモニーが事業所で行われた。市担当者とは、日頃から運営上の課題について、指導や助言を得ながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に「身体拘束なしの同意書」を家族に記入していただき、施設全体で身体拘束をしないケアを徹底している。	職員会議で身体拘束をしないケアについて話し合っている。拘束をしないことで、万が一の事故が起きた場合も想定し、「身体拘束なしの同意書」を家族と交わしてトラブルを回避している。事故のリスクが高い場合は、ルールに沿って対処し、現在、拘束ゼロである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に積極的に参加し、職員会議にて虐待防止について話し合う機会を設けている。		

岐阜県 郡上乃風グループホーム清流の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に積極的に参加し、職員会議にて虐待防止について話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、ご本人・ご家族に十分な説明をし、理会していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時、意見・要望を伝えていただけるよう、意見箱を設置。	感染予防対策の為、家族の面会は玄関先での短時間面会としている。毎月発行の「清流だより」には、担当職員が利用者の様子を記載し家族に送付している。個人情報の取り扱いに考慮し、写真の掲載は控え、希望する家族にはSNSで写真を送るなどしているが、家族の要望や質問等が、職員間で共有されていないこともある。	家族からの要望や意見は直ぐに記録し、申し送りで確実に伝え、職員間で共有することが大切である。個人情報の取り扱いにも配慮しながら、家族の思いを受け止め、更なる信頼関係の強化に向けた取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させられるように会議等の場で職員等の声を大切にしている。管理者が現場に入ること風通しのいい環境としている。	管理者は、年2回、職員の個人面談で勤務時間やシフト等の希望を聞き、働きやすい職場環境作りに努めている。職員会議は、夜7時からの開催で出勤扱いとしている。職員からの稟議書の提出もあり、意見や提案を聞きながら、運営に反映させている。前回課題であった職員の研修時間の確保については、コロナ禍で進んでいない。	職員は毎日、重度の利用者ケアや転倒リスクのある利用者への支援に取り組んでいる。コロナ禍にあっても、職員一人ひとりのスキルアップに繋げる為に、実施方法を工夫しながら、研修や学習会の開催と、その継続に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の日々の業務への取り組みを理解し、人事考課を元の実績、勤務状況等も把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の日々の業務の会話や、人事考課の際、働きながらトレーニングできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護カフェや、ネットワークへの参加の機会を与えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画作成時、本人が困っている事、不安なこと、要望に常に耳を傾けて、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画作成時、本人が困っている事、不安なこと、要望に常に耳を傾けて、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画作成時、本人・家族が必要としているサービスを見極めて、支援方法を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人等の面会者も受け入れ、これまで大切にしてきた馴染みの人が途切れないよう支援している。	以前は、職員と一緒に地域の高齢者が集うサロンに出かけ、馴染みの人と交流していたが、新型コロナウイルス感染予防の為、中止となっている。携帯のLINEで交流している利用者もあり、職員が仲介しながら、関係継続につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係も良くなるように、一緒に行事を行ったり、日々の何気ないひと時も関わりあえる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、ご本人の思いを導き出すよう傾聴に努めている。	地元在住の職員も多く、利用者が慣れ親しんだ、この土地の方言で会話することで、思いや意向の把握がスムーズに出来ている。このコロナ禍で、家族との面会制限をせざるを得ない状況であり、遠方で足が遠のく家族もある。利用者の気持ちを察しながら、思いを引き出せるよう、傾聴に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、職員で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、支援に繋げている。	本人が望む暮らし方や家族の意見を取り入れ、介護計画を作成している。作成後は、日々の個別記録を確認しながら、本人の意向に沿ったケアができているかを振り返っている。医療面については、医師の意見を取り入れながら、モニタリングを重ね、利用者本位の計画となるよう話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、職員間で情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々ニーズに対し、既存のニーズにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

岐阜県 郡上乃風グループホーム清流の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴等から活かせる地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の希望を大切に、入所前からの主治医に引き続き受診してもらうようにしている。	受診は、従前のかかりつけ医または協力医に、家族が同行している。協力医による往診はない。受診時に本人の医療情報を家族に提供し、受診結果の報告を受け共有している。家族が遠方に住んでいて、同行困難な時は、法人の「助け合い事業」で支援しているが、受診終了まで職員が付き添うこともあり、今後の課題としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職も看護職も同じ立場で、同じ現場に立ち、互いがいつでも連携できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際も、病院の相談員と連携を取り、入院中、退院後の支援も情報交換しながら、スムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方も早い段階で家族と話し合い、相談し、事業所でできる事を十分に理解してもらえるよう方針を共有している。	看取り支援は行っていない。契約時に延命治療に関する意向調査をしており、緊急搬送時にも、家族に確認し対応している。夜間は看護師を配置し、法人施設の看護師とも協力体制にある。家族とは、早い段階で相談をしながら適切な情報を提供し、不安のないよう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時はマニュアルにて周知し、定期的な訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時も昼夜問わず、対応できるようにマニュアルにて周知。他事業所との連携も取れる体制にしている。	現在、災害訓練は事業所独自で実施し、消防署と市に報告書を提出している。AEDの取り扱いや、災害時のマニュアルを確認するなど、今、出来る事に留まっている。コロナ収束後には、全職員が迅速な行動で利用者を避難誘導できるよう、実践訓練を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを守った言葉かけや対応をしている。	職員は、利用者に呼び方の希望を聞いている。親しみのある呼び方を望む人もあるが、どんな時でも、利用者一人ひとりの人格を尊重し、節度ある態度での対応を心がけている。利用者の情報や写真の取り扱いについては、プライバシーを損ねることのないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で、その人のペースを大切に、日々の過ごし方を希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様、一緒に服を選んだり、訪問美容院等で身なりも整えられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、季節にあった食事作りや、行事を行っている。	朝食は外注食品を温め、昼・夕食は法人が運営する障がい福祉サービス事業の配食弁当の活用で、「高齢者の食を障がい者の職で支え合う」としている。食事形態は発注時に連絡し、衛生管理がされた法人の事業所で調理している。行事食やおやつは利用者も参加して作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を一日毎にしっかり記録し、一人ひとりの状態を把握し、支援に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを介助や声掛けによって実施している。		

岐阜県 郡上乃風グループホーム清流の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導、パット・オムツ交換を行い、排泄を習慣づけるよう支援している。	職員は、利用一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄を支援している。トイレ使用後は、後始末の確認もしている。排泄用品は、昼間と夜間、また、利用者の状態に合わせて選択するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や、水分量による排便コントロールを職員・看護職で相談しながら、一人ひとりに合った便秘予防を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめる様、曜日や時間を設定している。	利用者の状態に応じて、個浴及びリフト補助具を活用しながら、適切に支援をしている。脱衣室、浴室、洗濯室が同じ空間にあって広いため、暖房器具を置き、寒さ対策をしている。利用者の希望を聞き、同性介助にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣を理解し、その時々に応じて、安心して休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの習慣を理解し、職員と看護職が連携し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の活動や、季節ごとの行事によって、その人の役割や、楽しみを味わってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染予防の為、外出支援が出来ない状況であったが美容院を予約していかれる利用者さんもみえた。	感染予防の為、外出を自粛している。開放的なデッキで外気浴をしたり、お茶やおやつを楽しむなど、利用者の気分転換を図っている。これまで以上に、室内でのレクリエーションや体操を取り入れ、利用者の身体機能低下を予防している。	

岐阜県 郡上乃風グループホーム清流の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としての管理は施設で行い、本人が使用したい時に、買い物等で使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯を持ってみえる利用者様もおられ、いつでも自由に電話をされてみえる。施設の電話を希望される方にはお繋ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、生活感や季節感を大切にしてお飾りや掲示物により、居心地よく過ごせるように努めている。	2階には、企業主導型保育所と本部の事務室があり、ここでも短時間面会ができるようソファが設置されている。1階の広いデッキに洗濯物を干し、目の前には川や畑の景色が一望でき、開放的な空間である。共用空間には、空気清浄機を設置し、定期的な自然換気も行いながら、新型コロナウイルス感染予防対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、一人ひとりが思うように過ごせるような、余裕のあるゆったりとしたスペースを大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人がこれまでに使い慣れた物、お気に入りの物が置ける様、家族とも相談しながら、家と変わらない居心地を心掛けている。	居室の広さや設備、テラスやトイレの有無等で利用料金に違いはあるが、どの部屋もクローゼットとベッドを備え、使い慣れた物を自由に持ち込み、居心地よく過ごせる居室となっている。入口には、エアコンの設定温度を掲示し、職員が適切に管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は一人ひとりの「できる事」「わかる事」を活かして、安全で過しやすい空間を心がけている。		